

前期国語班（現代文）の活動

国語班： 3年1組 宮本美香

1. はじめに

前期国語班（現代文）はテーマを決めて自分の思いを文章化することを目標に定め、そのトレーニングとして文章力をつけるための課題をいくつか行いました。私は前期の最終課題として、「日本を活性化する産業」についての小論文に取り組み応募しました。その文章の中では「観光」を活性化の鍵として論を展開しました。奇しくも2020年の東京オリンピック開催が決まり、オリンピック招致のプレゼンテーションでは「おもてなし」がキーワードとなりました。観光立国日本の推進は、今後ますます期待できる話題なのではないでしょうか。

2. 小論文作品

「おもてなしの国、日本におこしやす」

最近よく、私の住む大阪でも外国人の方が街を歩いているのを見かける。首からカメラをぶら下げていたり、手には、ヨドバシカメラやユニクロなどのショッピング袋を持っていたりする。このような外国人を見るたび、私も海外旅行に行きたいなあとと思う。そして、数ある国の中から日本を選んでやって来てくれて嬉しくも思う。私はこのような訪日外国人旅行客を増やして、観光産業を盛り上げていくことが、日本の経済を活性化させる大きな鍵になると考える。

観光産業は、他の産業との関わりが非常に強い。航空、鉄道、バスなどの運輸業や飲食業やホテル、民宿などの宿泊施設や土産物産業、ガイド、通訳やツアーなどの旅行産業など、波及効果がこのうえなく大きい。こんなにも、他産業に横断する産業は他に類を見ない。観光産業を成功させることは、日本の経済を盛り上げることと直接的に繋がっている。天然資源に乏しく、新しく開発できる土地も少ないが、道路やインフラ設備が整っており、治安の良い日本にとってぴったりの産業であることは間違いない。

現在、訪日外国人は、どのくらいの数で、どこの国から、何を目的にして日本に来ているのか調べてみた。2010年には、861万人が訪日していて、その約7割がアジア方面から来ている。次いでアメリカ、イギリスとなっている。観光場所としては、宮島、原爆ドーム、松本城、金閣寺、東京ディズニーランドなどが上位を占めている。平均滞在期間が8日強で、最も多いのが5日未満の滞在。中には10日以上滞在している人もいて、全体の10パーセントに当たる。旅行者1人当たりの消費額（航空運賃を除く）は20万円前後。2008年には観光立国を目指すべく国土交通省の外局として日本観光庁が立ち上がった。そこでは、2010年までに1千万人、2015年までに2千万人にまで訪日外国人を増やす目標を掲げている。実際、1千万人になると、その経済効果は、宿泊や買い物で直接消費する額は2兆5千億円が見込まれる。観光産業には波及効果もあるので日本経済全体では5兆8千億円の効果が期待できるという試算がある。

このように、日本の経済活性化と、日本のことを外国人に知って理解を深めてもらう為に、訪日外国人旅行者の数を増やすことが必要である。そのためには、現在の観光産業の在り方の見直しや改善、それに加えて新しいサービスを始めなければならない。旅行者を増加させるためには、まず、「外国人観光客にやさしい街作り」が必要だ。例えば、日本観光のパンフレットを置く場所を増やすこと。空港や駅、コンビニや大型店舗など目につきやすい場所に、英語、中国語、韓国語、フランス語などの四か国語くらいのパンフレットを置いてもらえるように協力してもらう。また、都市部では取り組みが進んできているが、案内板や放送など、外国人の方が道に迷わずスムーズに観光ができるしくみをもっと充実させる必要がある。

もう一つ注目している点がある。最近海外でアニメ、ゲーム、アイドルなど新しい日本の文化の人氣が高まって来ているということである。現在AKB48を筆頭にたくさんのアイドルが人氣を海外でも集めている。またアニメも、セーラームーンやドラゴンボールなど懐かしいものから、ワンピース、エヴァンゲリオンなど最近のものまで数えきれないほどたくさんの作品が愛されている。外国人の方の中にも、ファンが急増中である。この人氣は訪日外国人旅行者を増やすことを可能にする。実際、小樽市をはじめ、アニメのコスプレ大会のようなイベントで町おこしも行われているが、外国人の方がもっと参加しやすいように工夫したり、外国語版のグッズを作ったりすれば、日本人のファンと外国人のファンの交流にもつながって、新しい文化が生まれるだろう。

そして、新しい制度として提案したいことがある。それは、インターネット上で大型外国人向けサイトをつくること。観光地+宿+食事+商業施設+お土産をパックにして紹介して、宿など予約できるサイトである。人氣の場所が一目瞭然で分かるし、それぞれ個人に合ったたくさんの選択肢を用意することで、たくさんの人のニーズに応えることができる。そして、そこに紹介されてある店や宿に行くと、「このサイトを見て来た。」と伝えると、その店や宿側からちょっとしたプレゼント（日本らしいお菓子など）をもらえるとか、協力してもらえる店や宿には「外国人にやさしい店・宿」のステッカーを店先に貼っておくとか、これらはささやかな一例であるが、「おもてなし」の心で外国人の方に少しでも日本に好感を持ってもらえるようにしたい。

さて、「観光立国」として外国からたくさんの方々に来てもらうには、なによりも諸外国と平和で友好的な関係を保つことが大切である。現在の世界情勢をみると、各国間でさまざまな政治や経済上の問題が起こり、衝突や紛争に発展している場合も多い。日本も最近、近隣の国々との間に難しい問題をかかえている。観光は平和産業であるという視点をもって、「世界で一番のおもてなしの国、日本」と胸を張れる国でありたい。そして、経済問題を知恵と工夫で解決させ、少しずつ明るい展望のある日本をみられることを願う。私も、ほんの少しでも貢献できるようになりたい。

[参考出典]

- ・日本政府観光局 http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/visitor_trends/data_zantei.html
- ・トリップアドバイザー

<http://www.tripadvisor.jp/HotSpotsJapan>